

大項目	4	「地理総合」の授業法と小中高の接続教育			
中項目	4-2	小中学校社会科との接続連携をどうするか。			
小項目	4-2-2	小中学校における地図/GISの活用			
細項目 (発問)	4-2-2-2 小学校地域学習	小学校における地理院地図を活用した身近な地域の学習の事例を知りたい。			
作成者名	吉田和義	作成・修正年	2020/2021/2023/2024年	Ver.	1.3
キーワード 5~10個程度	白地図 小学校 身近な地域 地理院地図 町探検				

発問と説明

(1) 小学校における地域学習の位置づけ

小学校では第3学年に身近な地域の学習が位置付けられます。小学校学習指導要領（2017年告示）では、第3学年の内容を以下の様に示しています。

「(1) 身近な地域や市区町村（以下第2章第2節において「市」という。）の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること。

(イ) 観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を見に付けること。

(ア) 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。」（文部科学省 2018）

身近な地域の学習は、第3学年のはじめの単元として位置付けられます。この学習の導入では、身近な地域の地図を活用して、学区の探検にいくための学習の問題を明確にし、どのような事象を観察・調査するか確かめます。そして実際に地域に観察・調査に出かけて行くことが重要です。このとき、子どもは地図付の探検カードを持って行き、記録を取るようになります。探検が終わると、観察・発見したことを地図を活用して表現します。

(2) 身近な地域の学習における地理院地図の活用

身近な地域の学習では、教材として白地図が重要です。地理院地図を活用し、小学校がある学区域を中心とした地域の白地図を用意することができます。地理院地図には「Vector」という機能があり、ここをクリックするとメニューが示され、「白地図」を選択することにより学区の白地図を表示することができます（図1・図2）。

小学校で活用する場合には、子どもが地図を読み取り易いように工夫すると良いでしょう。学校や子どもが遊ぶ公園など主な地物の絵記号を描き入れておきます。これを基に子どもが、学区探検のときに持っていく地図付の探検カードを作成します。参照 URL 1

(3) 空中写真の活用

学区の空中写真を活用して、学校の位置を確かめます。このとき、上空から垂直に見たときと、真横から水平に見たときの見え方の違いに注目します。上空から垂直に見ると学校の校舎は、長方形の建物の屋上だけが見えます。窓や玄関は見えません。水平の方向から見ると学校の建物の窓や玄関の扉が見えます。このような違いを確かめ、地図は上空から垂直に見た視点で描くことを確かめます。そして、普段見る建物と地図上で見る地物は、見え方が違うことに気付くようになります。

地図は、上空から見た視点に立って作成されるため、日常的に景観を見ている視点とは異なります。子どもは、視点が転換されると、見え方がどのように異なるか捉えることが求められます。日常的な景観の見え方と地図との見え方の違いを実例に基づいて分かるようにすることが重要です（図3・図4）。

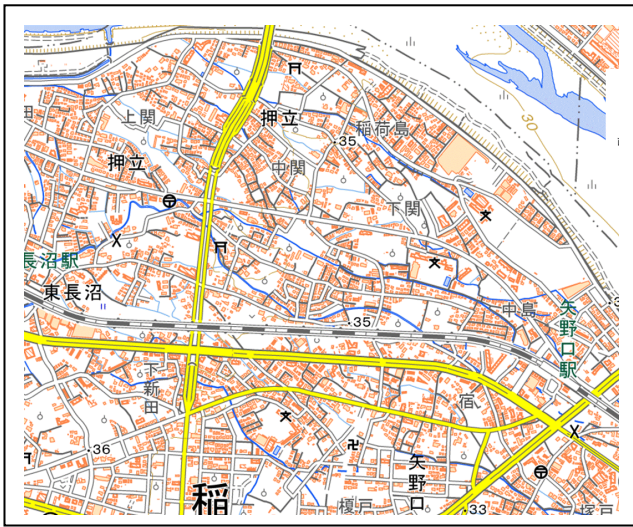


図1 学区域の地図 地理院地図

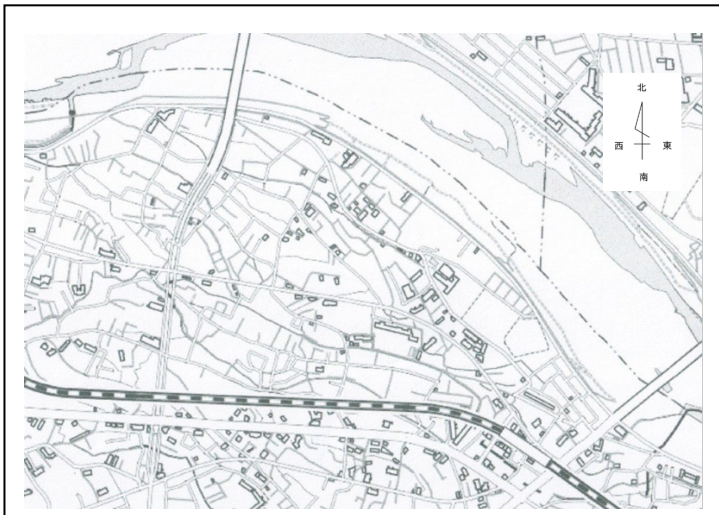


図2 学区域の白地図 地理院地図



図3 真上から見た学校の校舎
地理院地図 空中写真



図4 真横から見た学校の校舎
(筆者撮影)

(3) 市(区町村)の学習における地理院地図の活用

①市(区町村)の位置

市(区町村)の学習は、身近な地域に続く単元として位置付けられます。ここでは、東京都世田谷区を例に市(区町村)の学習における地図の活用について考えます。学習の導入で市の位置を確かめます。このとき地理院地図を活用します。まず、日本全体の中で世田谷区がある東京都がどこにあるのか確かめます。そして、東京都の隣接する県とその位置も併せて確認します。東京都の北は埼玉県、東は千葉県、南は神奈川県、西は山梨県と分かります。地理院地図の「情報」をクリックし、「ベースマップ」、「白地図」と進むと日本の白地図や東京都の白地図を見ることができます。次に、東京都の中で市(区町村)が、ここでは世田谷区がどこにあるか確かめます。世田谷区は東京都の南部に位置していることが分かります。世田谷区の南は、神奈川県になります。東の東京湾には面していませんが、東京都全体の中では東よりに位置しています。世田谷区の位置を方位と地名を使って表現します。世田谷区は北が杉並区に、東は目黒区、大田区に、南は多摩川が流れ、川を越えると神奈川県川崎市に、西は狛江市、調布市、三鷹市に接していることが分かります。そして、区の中で自分たちの学校がどこにあるか調べます(図5・図7)。

地理院地図では、縮尺レベルを自由に選ぶことができるので、日本全体を示す小縮尺レベルの電子地図から市(区町村)を示す大縮尺レベルの電子地図までズームレベルを変えながら位置を確かめることができます。

②市(区町村)の地形

区の地形の特色を調べるときに、地理院地図の地形を表す地図を参照します。色別に標高を表現した地図や地形の特色を表した地図を活用します。世田谷区付近の色別標高地図をみると、南の多摩川に近いところは、標高が低いことが読み取れます。そして、北へ進むと、また西へ進むと標高が高くなっていることが分かります。また、地形の特色に注目すると、多摩川に沿うように国分寺崖線という多摩川が形成した段丘崖があり、その北側は標高が高くなっています(図6)。

平面地図から高さの違いを読み取ることは、小学校第3学年の子どもにとって難しい作業です。色別に標高を表現した地図、並びに立体模型を併せて活用し、区の地形を特色を捉えるようにすれば、理解しやすくなります。自分の学校が標高何メートルの高さにあるか捉えることは、防災の観点からも重要です。多摩川の沖積地の標高が低い地域では、水害の危険性が指摘されています。

③市(区町村)の交通

地理院地図では、鉄道に着色をして強調することができます。このような作業により、鉄道やおもな道路などの交通の様子を捉えやすくなります。世田谷区の場合は、地図の北東から南西にかけて鉄道が伸びています。新宿駅を起点とする京王線と小田急線、渋谷駅を起点とする東急田園都市線などです。世田谷区は、東京の都心の南西に位置し、主な鉄道は区の北東にある都心から、校外へ向けて伸びていることが分かります(図8)。また、土地利用図を重ね合わせると商店街は鉄道の駅の近くに広がっていることが読み取れます。

(4) 地図帳と併せて活用

地理院地図と教科用図書「地図」(地図帳)を併用することが大切です。地図帳は、第3学年の初めに給与されます。地理の授業では地図帳を有効に活用することも、非常に重要です。日本の中における都道府県の位置、都道府県の中における市区町村の位置は、地図帳を活用して確かめることができます。しかし、地図帳は縮尺を自由に換えられません。また、地図の要素が多く、かえって見づらい場合も少なくありません。地図帳と共に地理院地図を活用し、要素を精選した分かり易い地図を用意し、提示すると学習効果が高まります。

参考 URL (2024年2月 参照確認)

参考 URL : 地理院地図 <https://maps.gsi.go.jp>

参考文献

文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』日本文教出版

吉田和義(2018)『手描き地図分析から見た知覚環境の発達プロセス』風間書房

宮崎 猛・吉田和義編著(2018)『社会科教育の創造—基礎・理論・実践—』教育出版



図5 世田谷区と隣接の市・区
地理院地図

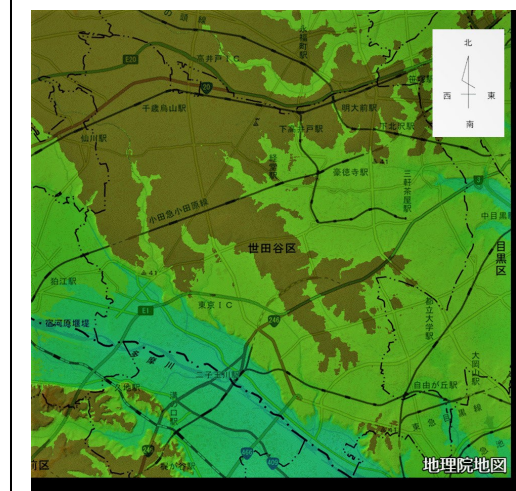


図6 世田谷区の地形
0 2 km

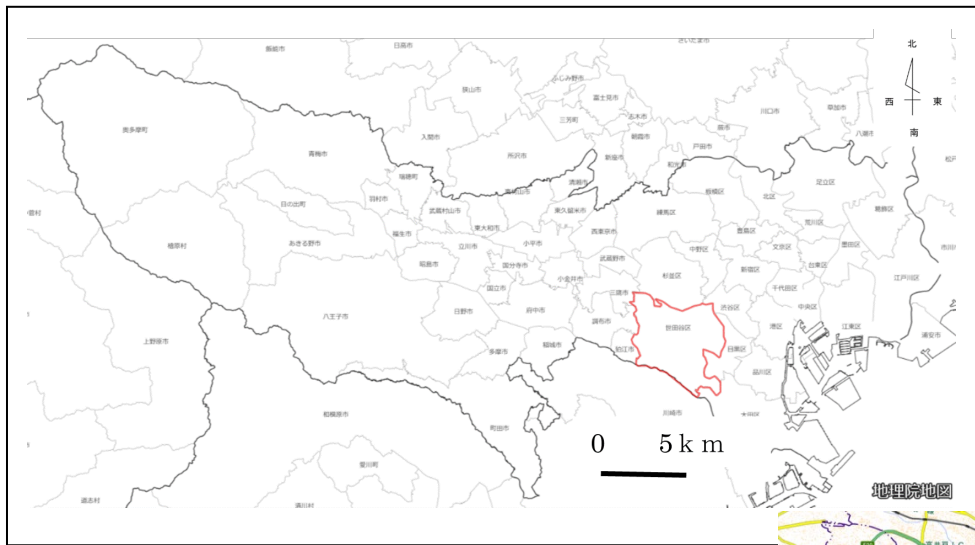


図7 東京都における世田谷区の位置
地理院地図

図8 世田谷区の交通
地理院地図



地理院地図の「機能」「ツール」「作図・ファイル」に進むと作図機能で地図に色の線を描くことができます。図7は世田谷区の形に、図8は鉄道の路線に着色しました。